

新人薬剤師研修プログラムについて

教育方針

当院薬剤部では、「千葉メディカルセンターの理念を理解し、患者さんに安全で適切な医療を提供するため、もてる知識、技能、態度を総合して様々な課題を解決できる病院薬剤師の育成」を目標に新人教育を行っております。このカリキュラムでは、将来そのような病院薬剤師として活躍していくための基礎力の養成を目指しています。

研修の概要

○モデル研修期間

1年程度

○一般目標

- ・ 薬剤業務に関わるルールをその理論的根拠と共に理解し、正確で迅速な業務を実践する。
- ・ 患者との関わりや他部署との連携を意識しながら、薬剤業務を修得する。
- ・ 薬剤業務上の問題を発見し、解決していくプロセスを体験する。

○到達目標

- ・ 院内採用薬の基本的な医薬品情報を説明できる。
- ・ 調剤内規など薬剤業務上のルールを、その理論的根拠と共に説明できる。
- ・ 個々の薬剤業務と院内他部署との関わりを概説できる。
- ・ 種々のリスクを考えながら、ルールに従い自立して薬剤業務を実践できる

○主な指導者

- ・ 薬剤部薬剤科長
- ・ 薬剤部主任
- ・ 薬剤部職員

○評価方法

- ・ 研修評価シートを活用し、各項目の達成管理をおこない、随時指導担当者からフィードバックを行う。
- ・ 内外用調剤、注射剤調剤、無菌調製については、指導担当者、薬剤部主任とリスクマネージャーが業務の修得状況について見極めを行い、薬剤科長が認証する。

※当該研修に係る内容は、定期的に関連委員会等で協議し見直しを実施する。

当院の研修プログラム

研修責任者：薬剤部薬剤科 科長 岡本卓也

【研修プログラム】

- ①内服・外用・注射薬の調剤（医薬品（麻薬・毒薬・向精神薬）の管理、処方監査含む）
- ②外来患者の薬学的管理（外来化学療法を実施するための治療室における薬学的管理等）
- ③入院患者の薬学的管理（薬剤管理指導、病棟薬剤業務、入院時の薬局との連携含む）
- ④無菌調製（レジメン管理含む）
- ⑤医薬品情報管理
- ⑥薬剤の血中濃度測定の結果に基づく投与量の管理
- ⑦手術室及び集中治療室等における薬学的管理
- ⑧その他（医療安全・感染制御・地域連携）

○調剤業務：

- ・ 処方内容の確認・分析（電子カルテの利用による薬剤服用歴の確認も含む。）
- ・ 処方監査及び疑義照会
- ・ 計数調剤
- ・ 計量調剤（散剤、水剤、軟膏剤等）
- ・ 一包化
- ・ 麻薬（手術室含む）、向精神薬等の調剤及び管理
- ・ 院内製剤
- ・ 医薬品の管理

○注射剤調製業務（無菌製剤を含む。）

- ・ 注射剤の調剤、払出し及び管理
- ・ 中心静脈栄養用輸液の調製
- ・ 抗悪性腫瘍薬の注射剤の調製
- ・ レジメン管理

○病棟薬剤業務

- ・ 患者情報及び持参薬の確認及び評価（薬局との連携も含む。）
- ・ 上記に基づく処方提案
- ・ 適正な薬物治療に関する薬剤調整（ポリファーマシー対策を含む）業務
- ・ ハイリスク薬を含む薬物治療に係る患者への説明及び指導
- ・ 副作用の重篤化回避、未然回避、薬物治療効果の向上のプレアボイド
- ・ 薬物血中濃度モニタリングに基づく投与設計及び管理
- ・ 退院、転院時の服薬の説明および指導

○チーム医療

- ・ 外来化学療法室での業務（外来がん化学療法を含む。）
- ・ 緩和医療チームとしての業務
- ・ 周術期における薬剤管理業務（手術室におけるものも含む。）
- ・ 感染対策、NST 等の業務
- ・ 他職種等からの相談応需業務

○医薬品情報管理業務

- ・ 医薬品情報の収集、薬学的評価及び活用
- ・ 患者や他職種からの照会対応

○その他

- ・ 地域連携業務(施設間情報連携を含む)：訪問薬剤管理指導に随行
- ・ 医療安全：薬剤部安全委員会や医療安全部会等参加、インシデントレポート作成
- ・ 感染制御：標準予防策を行うことができ他者にも説明できる。ICTやASTの委員会やラウンドに参加